

女性摂食障害患者の SNS使用に関する調査

SNS : **S**ocial **N**etworking **S**ervice

○鈴木円佳(管理栄養士)₁₎ 中村友美子(管理栄養士)₁₎ 山本泰輔(医師)₂₎

医療法人耕仁会札幌太田病院 1)食事サービス課 2)医局

はじめに

生物学的
脆弱性

らいさん
痩せを礼賛する
メディア

家族関係

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍、
WEBサイト、**ソーシャルメディア (SNS)**

性格

ストレス
環境

摂食障害 発症

目的

- 摂食障害女性のSNS利用方法の特徴を明らかにする
- 摂食障害とSNSの付き合い方を探る

方 法

1. 対象者（10～30代）

- ・ 外来入院治療中の摂食障害を持つ女性14名（患者群）
- ・ 当院女性職員14名（対象群）

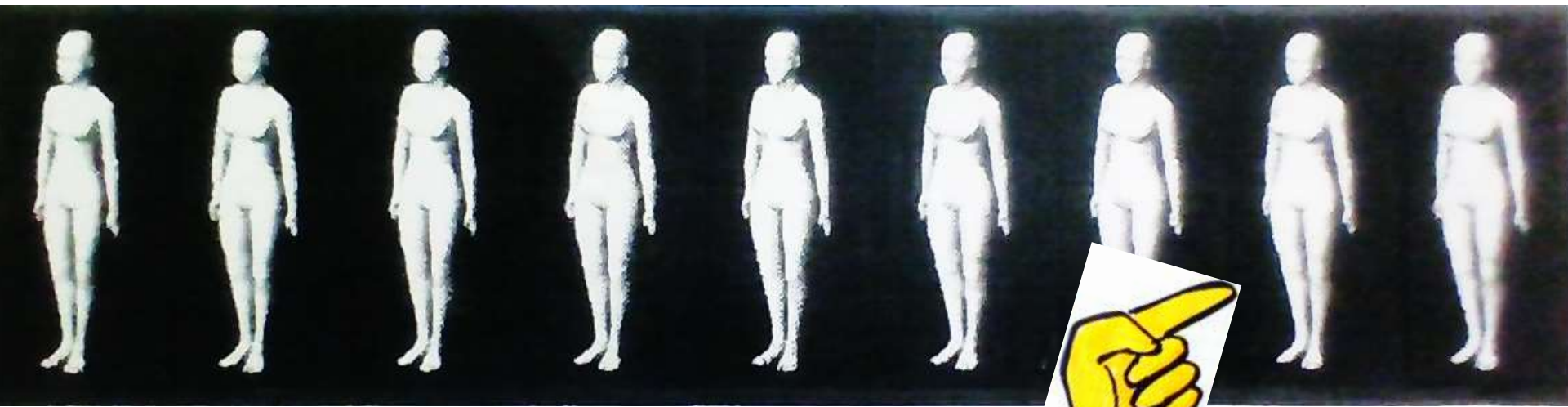
2. WEBと紙の質問調査内容

- (1) ボディイメージのずれ値
- (2) 日本語版EAT-26
- (3) SNSのアカウント所有数
- (4) ダイエット専用アカウントでのフォロー数と種類

※日本語版EAT-26：神経性やせ症を早期発見するスクリーニングテスト

方法

(1) Japanese Body Silhouette Scale-1



- 現在の自分の体型を1つ選択してもらう
- 選んだシルエット = 認知してるBMI
- $BMI - \text{認知しているBMI} = \text{ボディイメージのずれ値}$
- マイナス値が大きいほど、太っていると認知している
- BMI : 身長と体重から算出される体格指数

方 法

1. 対象者（10～30代）

- ・ 外来入院治療中の摂食障害を持つ女性14名（患者群）
- ・ 当院女性職員14名（対象群）

2. WEBと紙の質問調査内容

- (1) ボディイメージのずれ値
- (2) 日本語版EAT-26
- (3) SNSのアカウント所有数
- (4) ダイエット専用アカウントでのフォロー数と種類

※日本語版EAT-26：神経性やせ症を早期発見するスクリーニングテスト

結 果

1. 患者群 (N=12)

- 患者群14名のうち、未回答1名、回答拒否1名

診断名	人数
神経性食欲不振症	6名
神経性大食症	5名
摂食障害	1名

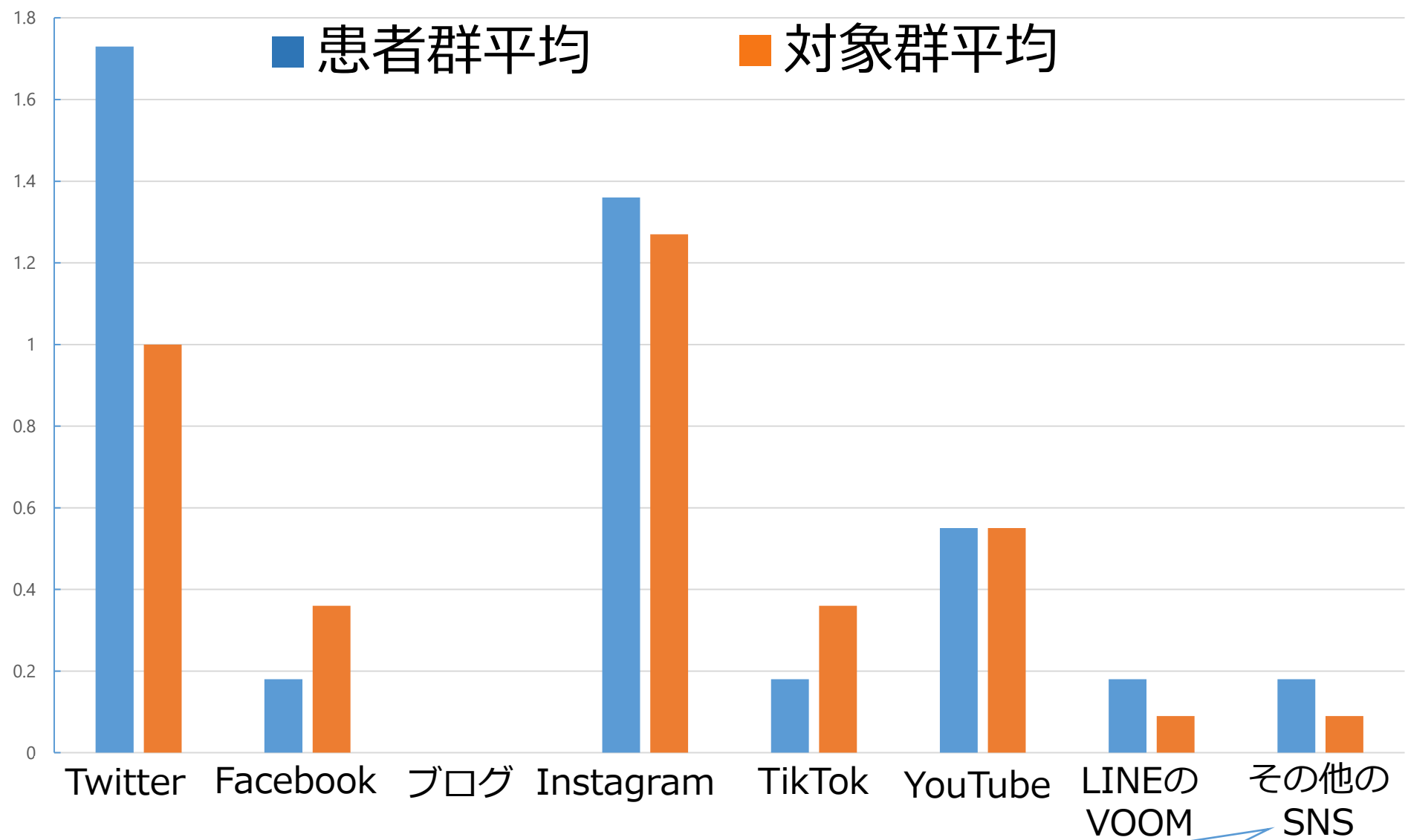
2. 対象群 (N=14)

- 全員から回答あり

結果 (1) (2)

	患者群平均 (N=12)	対象群平均 (N=14)	p 値
ボディイメージの ずれ	-3.25	-0.31	0.0002
EAT-26合計	26.5	4.4	0.0001
EAT-26 ダイエット	14.8	2.2	0.0002
EAT-26 過食と食の関心	8.7	2	0.0002
EAT-26 食のコントロール	2.9	0.2	0.0043

結果 (3) SNSごとのアカウント所有数



有意差なし

LINE、GRAVITY (チャット、音声中心のSNS)

結 果

(4) ダイエット専用SNSの有無

	患者群平均 (N=12)	対象群平均 (N=14)
Twitter	0	0
Facebook	0	0
ブログ	0	0
Instagram	2	0
TikTok	0	0
YouTube	0	0
LINEのVOOM	0	0
その他のSNS	0	0

結 果

(4) ダイエット専用SNSでフォローしているアカウントの種類と合計

- ダイエット料理・レシピ系アカウント12個
- ダイエットの運動系アカウント1個
- ダイエット経験者・継続中のアカウント4個
- その他 自由記載回答なし 0個

考 察

□摂食障害女性のSNS利用方法の特徴を明らかにする

⇒SNSごとのアカウント所有数に差はなかった。

しかし、患者群の一部はダイエット専用の
Instagram アカウントを持ち、ダイエット情報の
収集をしていた。



Instagramは写真が必須のSNS

料理・体型・体重など

情報が視覚で得やすいSNS

考察



5/18(残り3日)
46.4KG
トータル: 2010kcal



食べる危険！太るスイーツランキング！

鬼太るスイーツ

1位 みつぱん 糖質の量多すぎ！	2位 モンブラン 糖質×脂質で太る！	3位 ショートケーキ 脂質が高くて太りやすい！
4位 ティラミス 糖質が高くて太りやすい！	5位 ドーナツ 糖質×脂質のコンビ	6位 あんみつ 糖質がとにかく高い！
7位 チョコレート 止まらなくなるほどおいしい	8位 ロールケーキ 糖質高くて太りやすい	9位 アイスクリーム 糖質が高くて太りやすい

やめろ

やめたら

痩せた6選



考察

不適切な投稿
運営に通報

運営が確認



アカウントの凍結など
対応される

報告する

投稿へ移動

シェア先...

リンクをコピー

埋め込み

キャンセル

報告



この投稿を報告する理由

スパムである

ヌードまたは性的行為

ヘイトスピーチまたは差別的なシンボル

暴力または危険な団体

違法または規制対象商品の販売

いじめまたは嫌がらせ

知的財産権の侵害

自殺または自傷行為

摂食障害

詐欺・欺瞞

虚偽の情報

単に気に入らない

考察

□摂食障害とSNSの付き合い方を探る

⇒今回の結果では、摂食障害とSNSの付き合い方を明確に出来なかった。



- ダイエット専用アカウントがなくてもダイエット情報収集していることを想定した質問
- SNSをどのくらい信頼しているかの質問
- SNSの利用時間の質問
- フォローしているアカウントの分類を追加
 - ・ 摂食障害に関するアカウント
 - ・ インフルエンサー、モデル、アイドルのアカウントなどを追加

質問項目を調整すれば、SNS利用の付き合い方を明確にできると考える。

今 後

- SNSのアカウントの有無などは、プライベートに踏み込む質問と思い、栄養指導で聞きづらかった
- 今回の調査で、専用アカウントの存在を教えてくれることが分かった
- 今後の栄養指導時にも口頭で情報収集していきたい

参考文献

- 1) 橋本聖子・宮岡佳子・鈴木眞理・加茂登志子. ソーシャルネットワークワーキングサービス (SNS) と食行動およびボディイメージとの関連についての研究—女性摂食障害患者と女子大学生の比較検討を通して—. 跡見学園女子大学文学部紀要. 2018, 第53号, p 265-276.
- 2) 後藤佳代子. 青年期後期における「孤独感」と「摂食態度」との関連. 生活科学研究誌. 2023, Vol.2, «人間福祉分野», p 233-239.
- 3) Mukai,Crago,& Shisslak. 日本語版EAT-26. 1994
- 4) 鈴木公啓. 新しい身体シルエット図 (J-BSS- I) の作成, 評価, および使用法. 織消誌. 2007, Vol.48, No.11, p 68-75
- 5) Anne O'Shea PhD et al.(2020),The relationship between social media use and disordered eating in young adolescents,international journal of eating disorders,53(1)96-106
- 6) Grace Holland,Mrika Tiggemann,Body Image.2016 jun;17:100-10.